



父と紙

田中和将

幼少期、両親の離婚により父と離れて暮らすことになった。なにしろ幼い頃の話なので、自分が何歳だったかは曖昧である。

しばらくして、父から私に宛てて葉書が届いた。ぎこちない筆致で「元気にしているか。また会える日を楽しみにしている。」というような、今思えば至極ありきたりな内容の文章だったが、その下に、おそらくこのために初めて描いたのではないか、と思わせる、サイボーグ009の拙いイラストが添えてあった。黒インクのペンで描かれたそれは、よく見ると鉛筆で下描きをした跡が複数あり、消しゴムで何度も消した跡もあった。苦勞して描いたのは明らかだった。特にサイボーグ009が好きだったわけではなかったが、父からすれば、かなり頑張っ

て子どもの喜びそうなものを選んだつもりだったのだろう。私は幼いながらも、その心境がわかるような気がして、嬉しいようなさびしいような、なんだか申し訳ないような、複雑な気持ちになった。

その葉書を、大事なものをに入れておく自作の箱に仕舞いこみ、ひとりになった時に取り出しては何度も何度も眺めた。「意外と絵うまいやん」と、心の中で褒めてみたり、裏返して「この住所はどこなんやろ」と、遠い異郷の街で車を運転する父を想像してみたりした。一緒に居た時間や、共に暮らした思い出が僅かだったため、その一枚の葉書で父と自分の繋がりを肯定したかったのかもしれない。通信面も宛名面も、今も鮮明に思い出せるほど記憶に焼き付いている。

成人してから何度か会う機会があったが、この話はしていない。結局、知ることなく父は数年前に他界した。

いつの間にか私も親になり、父になった。嬉しいことに、三人の子ども達は毎年、誕生日や父の日にメッセージをくれる。それを自室の壁に貼る。まだ鏡文字が混じる幼い頃から、イラスト付き、イラストのみ、色付き、似顔絵、動物、ギター。



たなか・かずまさ ● ミュージシャン。1974年兵庫県生まれ。1997年にミニ・アルバム「覚醒」でデビューしたロックバンドGRAPEVINEのボーカリスト及びサイド・ギタリスト。バンドでは作詞も手がけている。最新アルバムは「新しい果実」(2021)。2022年、デビュー25周年のアニバーサリー・イヤーを迎え、全国ツアー「in a lifetime presents another sky」を開催中。

撮影協力:CLOCKWISE/BS&T STUDIO

ちゃんとしたメッセージカードのこともあれば、メモ用紙やスケッチブック、ノートの切れ端のようなものもある。三者三様、いろんなアプローチと成長ぶりを感ぜられて楽しい。

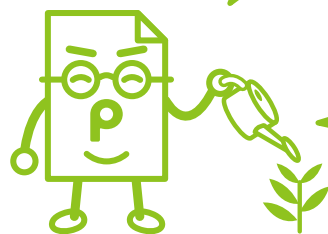
皆、もうずいぶん大きくなり、近頃はさすがに頻度も減って、忘れられていることもしばしばあるが、それでも部屋の壁をどんどん浸食し続けている。やはり古いものは変色などの劣化が見られ、どうするか、を考えてみる。今時ならば、これらをデジタルカメラで撮影したり、スキャンしたりしてデータ化するのかもしれない。それが嫌なら、例えば選別して額装するとか、アルバムやクリアファイルなどに保管する、という手もある。

それができないのだ。このままでよい。この家で、この部屋で長い時間を過ごし、全てを記憶に刻まばよい。紙と私は共に劣化し、一緒にくたびれていくのがよい。

ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

紙づくりの前に、森づくり。

森林はきちんと管理すれば、ずっと利用できる資源。製紙会社は、30年以上も前から植林活動をはじめ、現在では日本を含めて世界9ヶ国、植林地の合計面積は約51万haにまで広がっています。なんと、これは東京ドーム約11万個分の面積。ちなみに、2030年度までに植林面積65万haを目指しているんだって。



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、<http://kamitsubu.com/>「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。

今回は9月29日号です。

提供： 日本製紙連合会 <https://www.jpa.gr.jp>

Photo : Shiro Miyake